

職場適応アセスメントBWAP2に基づいた就労支援

～放課後等デイサービス利用するASD者を中心に～

○島中 令子（NPO法人CCV CCV Epic(放課後等デイサービス) 主任）

高橋 幾（早稲田大学大学院 教育学研究科）

梅永 雄二（早稲田大学 教育・総合科学学術院）

1 問題の所在及び目的

Hendricks (2010) は、ASD者の就労では多くが失業を体験しており、職に就いたとしても不安定就労が一般的であることを報告し、従来の就労支援サービスがASD者の障害特性を考慮したものになっていないことの問題を指摘している。

また、梅永 (2017) は、汎化応用が困難なASD者が適切な仕事に就くために、学校教育段階からの将来の自立を考えた教育が必要であり、特に、環境要因を考慮したライフスキルやソフトスキルへのアセスメントと支援の重要性を述べている。

成人期の就労につながるような支援を実施すべき放課後等デイサービスにおいては、平成24年4月の制度創設以降、事業所の数が大幅に増加しているが、一方で、利潤を追求し支援の質が低い事業所や適切でない支援を行う事業所が増えているとの指摘があり、支援内容の適正化と質の向上が求められている（厚生労働省社会保障審議会障害者部会資料、2019）。

本研究では、放課後等デイサービス（就労準備型）において、環境の影響を受けやすいASD者の障害特性に合わせた支援を検討するため、現場で支援者が簡易に実施できるアセスメントを用いて、就労に向けた移行期の生徒に対する個別の支援を行うことを目的とした。

2 方法

(1) 対象者

- ① 氏名：ケイタ(仮名) 年齢：18歳（男性）
- ② 所属：放課後等デイサービスA（就労準備型）20XX年1月～高等学校通信課程20XX年10月～
- ③ 診断：ASD・知的障害 手帳：療育手帳B2

公立中学校のころから集団での授業が困難になり始めた。高等特別支援学校に入学したが、1年次の外部実習に行くことができず、2年に進級できなかったことから中退し、家に引きこもるようになった。20XX年1月に放課後等デイサービス事業所の利用を開始し、特性に合わせた環境下で継続的な通所が可能となっていたことから、同年10月に通信制高校に入学した。日頃の学習には取り組んでいたが、年間10回程度受講が必要なスクーリング授業の参加に困難を示し、欠席や遅刻を繰り返していた。

(2) 手続き

ア BWAP2の活用

当法人では、利用者の増加する中で、環境の影響を受けやすいASD者の障害特性に合わせた支援を検討するため、現場で支援者が簡易に実施できるアセスメントが求められていた。そこで、BWAP2を導入した。

BWAP2とは、ベッカー職場適応尺度（Becker Work Adjustment Profile）のことで、米国では現在第2版が刊行されている。BWAP2では、実際に仕事をしている状況を観察し、「職業習慣（HA）」「対人関係（IR）」「認知スキル（CO）」「職務遂行能力（WP）」の4つの領域でアセスメントされる（Becker, 2005）。「職業習慣（HA）」の領域では、衛生面、身だしなみ、時間順守などの働く上での基本的な生活習慣、「対人関係（IR）」の領域では、上司からの仕事の修正があった場合に素直に受け入れられるか、職場でトラブルが生じたときに感情を抑えられるか、など職場で生じる可能性のある内容が盛り込まれている。

また、記憶力や読解力、計算能力、書字能力などの知的な能力は「認知スキル（CO）」の領域として評価される。そして、「職務遂行能力（WP）」領域では、単に作業の量や質を評価するだけではなく、工作中わからないことがあったら上司に援助を受けることができるか、職場で何らかの問題が生じたときに上司に報告できるかといった職場で必要なコミュニケーション能力も含まれている。

20XX+1年2月と8月においてBWAP2を実施した。記録はケイタを担当する職員が行った。2月のケイタのBWAP2では、対人関係（IR）と職業習慣（HA）の2領域の得点が低かった。対人関係（IR）の下位検査項目では、「修正の受け入れ（0点）」「感情の安定（0点）」「社会参加（0点）」「ルーティンの変化（0点）」などが低い得点であった。スクーリングに行くという環境の変化や変わった環境の中で見知らぬ外部の教師の授業に参加することに対する対応や感情制御の難しさが確認された。また、認知機能（CO）の下位検査項目では、コミュニケーション能力（1点）記憶力（1点）言葉指示の理解（1点）が低く、口頭でのコミュニケーションに苦しさが見られたことから、視覚的なコミュニケーション方法を導入した。

